

## ★ASEANの価値に確信を深めた外相会議=松宮敏樹

8月にシンガポールでおこなわれたASEAN（東南アジア諸国連合）の外相会議と一連の会合（2～6日）はASEANの重要な役割をあらためて確認する場となった。多くのメディアは米国、中国など大国のはざまで「ASEANは中国寄りか米国寄りか」と図式的に見る。しかし、ASEANの役割を現状に即して素直に見ることこそが重要だ。ASEANは加盟10カ国が毎年、議長国となり、今年はシンガポールだ。初日の開会式で、リー首相が開会演説、バラクリシュナン外相が開会あいさつをし、その内容にASEANの問題意識があらわれた。

リー首相は、ASEAN発足（1967年）から現在までを振り返り、敵意と対立に満ちた地域から平和と安定の地域に大きく変化したことを強調した。そのうえで、「ASEAN諸国が大国から影響と圧力を受けている」現在の状況だからこそASEANが「いっそう団結し、結束と有効性を維持しなければいけない。これが地域の内外にASEANの価値を示す唯一の道だ」とよびかけた。

一連の会議後の記者会見で、シンガポール紙の記者から「ASEANが大国の競い合いの場になる危険はないか」と聞かれたバラクリシュナン外相はこう答えた。「ASEANが地域の中心となること（中心性）を維持するためにはまず団結だ。冷戦の再来は起こさないし、大国の代理人になるつもりもない」。こうした強調は、一時、南シナ海をめぐる紛争で加盟国の意見が対立し、共同声明も出せなくなる危機に面したASEANが再び団結を強化し、中心性を強めていることへの確信がうかがえる。中心性とは、ASEANが諸大国からの介入は許さずに、地域の中心となって自主的な方針を貫くことだ。

注目された南シナ海問題では、中国とASEANが紛争の平和的解決をめざす「南シナ海行動規範」（COC）の作成にむけた「単一の交渉草案」に双方が合意した。交渉は簡単ではないが、「協議継続に当事者が関与することが緊張を緩和し、解決策をさぐる努力を強める」（同外相）と強調された。北朝鮮が唯一公式に参加している安全保障対話機構がASEAN地域フォーラムだ。ASEANは一貫して北朝鮮との対話の道を閉ざさず、問題の平和解決を提唱している。徹底した外交重視のASEANの姿勢こそ日本政府が深く学ぶべき方向だろう。（了）